



寄生虫

新鬼義男

人間の体内に小動物が寄生して種々の病氣を生ずるものを寄生虫病と申します。寄生虫病には種類が澤山にありまして、身体の種々の部分に來る處の病でありますが、今日は時節が盛夏の事であつて、飲食物に原因する、寄生虫病が澤山にあるから飲料、肉類及野菜類等の調理に就いての衛生的豫防の注意をお話し致そうと思ひます。

先づ飲料にては水であります。水は夏日最も廣く飲用せられたるもので水道の設けある所では左程危険はありませぬが、河水、池水、溪流、不完全なる井の水等には危険が多くあります。

波の溪流や、池、河等の水は田圃山谷を環流して

種々なる病的微菌を混する外、虫類及其卵が水中に混じて流れて居るから、若し之れに注意せず清潔なる水だと思つて飲ときは後日に至つて思はぬ寄生虫病に懸ります。農夫が耕耘の際又は旅客行軍者等の煩喝を醫する爲めに之れを飲用して其結果寄生虫病に懸る事のあるのは是れが爲めであります。其寄生虫の種類は已に取調べられたる物や未だ發見せられぬ所の寄生虫が澤山あつて一々云ふ事は出来ませぬが今日迄發見せられ居る處のもの先づ蛔虫だの、蟯虫だの十二指腸虫、鞭虫、腹小鰻、肝二口虫、絲狀虫、肺二口虫、近來北陸地方にある恙虫病などの寄生虫であります。かゝる虫類は流水が田圃、溪間を流れ其地方を灌漑浸潤するの際田圃の肥料や其附近に存在する病的虫や其卵を混じて流れて居るから之れを飲み下すときは消化器中に於て死滅せられる事なく反つて生長し又は孵化して其の各虫の好む處に侵入し種々の病氣を起すもので、即ち肝二口虫は肝臓に寄生

して肝臓病を發し肺二口虫の肺に寄生して咯血病を生し、糸状虫の血細管淋巴細管に侵入して血尿病等を發生するのは此れで河川池沼等の水を妄りに飲用するのは誠に危険であります尚井の水と雖も不完全なる井の水はよく煮沸して飲用せねばなりません、凡そ煮沸せしものは其高熱の爲寄生体は悉く死滅したれば体中に入るも生育する事が出来ません。

次に野菜類ですが、野菜は夏冬ともに食用上要用のものであるが殊に夏は野菜の種類も多く又肉類よりも多量に食用に供せられる物である、此野菜には寄生虫が中々に多いから寄生虫の主なるものを掲げて話して見よう、野菜類は皆田圃に産するものであつて、目下食用に供しつゝある茄子、胡瓜、南瓜、白瓜、西瓜、甜瓜、冬瓜の類、菜類、大豆類大根類、チサ、キャベツ、葉物など中々澤山あつて野菜類の調理は種々ありますが、煮熟する調理法は別段危険がありません、併し瓜類、菜類



大根類等の漬物、殊に一夜漬など云ふ香の物、西洋料理の生キャベツ等は甚だ危険であります、其譯を申しすれば、凡て野菜類は前に申ました如く寄生虫や其卵を混へたる肥料を以つて作るのですから、此等何れの野菜も寄生仔虫や其卵が附着して居らぬとは申されませぬ、而して此の寄生虫は甚だ微少なものでありますから人の眼にはとまぬか分りませぬ、彼の一葉漬にしまして食膳に供するときは漬物に附着せる仔虫や其卵殻は外面のみ食鹽に浸されるも内部は依然として生活を營つて居るから甚だ危険であります故に漬物は永く鹽に漬けて仔虫や卵殻の内部に浸潤せしめ之れを殺されなければ不安心であります。

世間に澤山ある蛔虫病を起す原因は前に述べた野菜調理の不注意や蛔虫卵の附着せる物体を口にす等か原因となつて起る物であります。此蛔虫寄生病は腸胃を害するのみでなく神経障害を起した

り貧血ひんけつをしたり黄疽わうじゆを起したり其外腸そのはがらうを穿孔せんこうして腹膜炎膿瘍ふくまくえんじゆうを生じたり殊ことに小兒せうにには瘰癧れいれんを來し腦膜炎まうえんの如ごとき恐おそるべき病狀びやうじやうを來す事ことがあり又野菜やさいには十二指腸虫じふにさしちゆうちゆうの孳虫卵ちゆうちゆうらんが附着ふつきやくして居つて此れも亦恐またおそるべき病症びやんじやうを發生はつせい致します、此附着このふつきやくしたる野菜やさいを食しするときは人の十二指腸じふにさしちゆうに寄生きやうじやうして其處そのところに咬くはちし血液けつえきを吸吮きつしんして生活せいかつするものであります其れ故ゆゑに其虫そのむしが漸々だうだうに増加ぞうかしますると劇甚げきじんの貧血ひんけつを起おこしまして初めはじめは胃病いびやうの如ごとき容体ようたいに消化器病しょうかきびやうの治療ちりやうを施ほどこしても治なほらず追々おひくち血ちを失うしなひ身体しんたいに浮腫ふしゆを生しやうじ遂ついに死しするに至いたる事ことがあります其他野菜そなたやさいに附着ふつきやくせる寄生虫きやうじちゆう發源はつげんは澤山たたくさんにありまして一々説明せつめいする譯わけには參りませぬが既に寄生虫病きやうじちゆうびやうの豫防よぼうには成なる可べく野菜やさいの生食しやうじき不完全ふぜんぜんの鹽漬しんじけ等は禁かぎじねばなりませぬ或研究家あつかけんかが此れ等の寄生虫きやうじちゆうの卵たまごが食鹽しょくえんに對たいしての抵抗力たいこくりきを取調とくしやうべましたのに依よれば卵たまごは中々なかなか抵抗力たいこくりきが深くて純食鹽じゆんじゆんえんに浸漬しんじけする事こと七日間しちにちかんなるも尙一部分なほぶぶんの解化かいわを見る事ことがあるさうです併し幼

虫ちゆうは一五「プロセント」以上の食鹽水中しょくえんすいぢゆうに於ては死滅しめつすると云ふ事ことです。是れに依つて見ると餘程永よほどながく鹽漬しんじけにせねば豫防よぼうが出来ないのですから一夜漬やひぢけの如ごときは持つての外の事ほかのことだと思おもひます。殊ことに東京市附近とうきやうしふじんの田圃でんぼに供給きやうきやうする肥料けりやうは多く市住民しぢゆうみんの肥料けりやうで市住民内しぢゆうみんないには日本全國民にほんぜんこくみんは申すに及およばず海外かいがい人も頻繁ひんぱんに出入しゆりんする事ことですから肥料中けりやうぢゆうに含有かうゆうする寄生虫きやうじちゆうは從つて多數たうすうで一地方いちほうの肥料けりやうを以て其附近そのふじんの田圃でんぼに供給きやうきやうするものと同日どうじつの談はなしではありませぬ其れ故ゆゑに東京市内青物市場とうきやうしちゆうせいぶつしやうばに上る蔬菜菓物さいさいくわつぶつは一層いちやうの注意ちゆういを以て食用じやうように供せねばなりません。肉類にくるいは大約魚たいりやう、鳥とり、獸けだま、三類さんるいで其内最も多量たうりやうに使用じやうしせられるものは魚類獸類ぎやうるいじゆうるいでありまして精密せいみつなる寄生病源きやうじびやうげんに就いての研探けんたんは未だ充分ふぜんぶんに出來ませぬが著あしいものを説明せつめいすれば、先づ獸肉じゆうにくは牛肉ぎゅうにく、豚肉ぶたにくが主なるもので、此れ等の屠殺とらさつには政府せいふが衛生えいせい上の規定きぎんを置き獸類じゆうるいの健否けんがを檢査けんさし病獸肉びやんじゆうを販賣はんばいする事ことを禁かぎしてあるから一見販賣けんばいする處ところの肉類にくるいは

危険が無い様です然し乍ら精細に注意すると中々危険であります何故となれば寄生虫病にかゝれる獣類も検査の際は未だ其病徴を表はさず体中に伏在して居る物ですから健否を分つ事が不可能です従つて病肉を販賣する事がないとも限りませぬ、故に肉類に向つても之れが注意を要する所以であります。牛肉豚肉は日用缺く可からざる食用品で多くは煮熟して食用に供するものであります。往々生肉鹽漬肉又は不全煮熟の物を食する事があるから従つて寄生虫病に懸る者も少くないですから充分煮熟してから食せねば甚だ危険であります。肉類寄生虫の著しきものは縲虫であります。縲虫には數種あつて有鈎縲虫、無鈎縲虫、裂頭縲虫等です。有鈎縲虫は多く豚肉を食するから來るので即ち豚肉中に縲虫の卵又は囊虫を存在するので不注意の調理を以て食するから來るので無鈎縲虫は多く牛肉、鮭肉等の中にやはり囊虫又は卵となつて存在し此れを食するから起るのであります。此等の肉

を食するとき肉中に縲虫の卵が含有せらるゝならば胃中に於て其れが孵化し虫を生じます。此虫は腸や血管を穿出して身体の諸々の組織に逍遙して囊虫となり諸般の障害を爲すのであります。又囊虫を含まるゝ肉を食するときは囊虫が胃の中に來て其囊を消化せられ腸に下りて段々節を生して長き縲虫となり消化障害や下痢、神經症などを起します。又裂頭縲虫は魚肉中にあるもので鮪鮭は殊に注意せなければなりません。若し此等の生肉を食ふときは前述の様な結果を來します。亦施毛虫と云ふものがあります。豚の外猫鼠狐等の獸肉中に生存して居ますから過つて此の肉を食すると胃中に於て大に繁殖して諸々の筋肉中に逍遙し消化障害、筋痛、浮腫、發熱等を來し遂に人命を奪ふ事があります。

以上の肉類寄生虫は其著しき物を掲げたる者で其他に種々不明の寄生虫は魚鳥獸肉中に澤山寄生して居ます。要するに完全なる煮熟を行はざる調理即

ち生肉鹽肉半熟の焼肉を食ふが如きは避けねばなら
 りませぬ尚以上の諸食品其物の調理は完全なるに
 其食器を清淨するに不潔の水を以てすればやはり
 危険であるから常に清潔なる水で以て洗ふ様心懸
 けねばなりません。

家庭に注文の二ヶ條

農學博士 新渡戸稻造
 法學博士

各家庭に向つて、お頼みしたいことは、時を定めて家
 族がより合つて、五分でも十分でも書物を読むことであ
 る、それを朝の食事後とすれば、その時間は客があらう
 が、無からうが、もし客が来たならば、僅かの時間故待
 たして置いても、それを勵行する、耶穌教信者なれば聖
 書の一節でもと云ふ所であるが、さうでない家庭には、
 わかり易い教訓の歌とか、徒然草の一章とか、經書の中
 からでもよいその日の思想を養ふものを、家族一般に今
 日ばこの主義でやらうではないかと云ふことを暗に示す、
 たとはば短氣は損氣と云ふことの話すれば、云ふた人
 も言質をとられて居るやうなものであるから、その日は
 少々腹の立つことがあつても、勢ひ勘忍袋の緒を締める
 やうになる、私は毎日紙片へ注意すべきことを書いて、

今日はこれぞと臺所へ貼出し、その説明をするやうに
 して居る、さればその日は一つの善事が行はれる、それ
 が毎日の事であるから、自然家庭は自分の理想に近づく
 やうになる、それは召使の者も一つにしての話である。
 それから今一つと云ふは、家族寄り集つて、朝なり夕
 なり、五分間か十分間か、皆寄つて坐禪をするやうに
 して心を落つけることである、鶴々かひそかにやつて居
 るのはあるが、一人でそれをすることは別として、私の
 注文するのは家族一同が、耶穌教の黙禱のやうに、無言
 で端坐する、就中忙がしいからそんな事はして居られぬ
 と云ふ人もあらうが、忙がしければ忙がしい人ほど餘計
 にそれをして、心を落付けねばならぬ、仕事をしたり遊
 んだりして經つ五分や十分は、瞬く程にも思はないか、
 その間無言で端坐して居ると、その一日の迷か減するや
 うに思、何うしても我々凡人は迷い易いものであるか
 ら、毎日僅かの時間を利用して瞑目端坐して精神を鍛へる、
 これを妻君とか子供とかは一人づつては出来ないから
 家族より合つて、細君にも、子供にもその癖をつけるや
 うにする、必ず精神の修養に利する所がある、

以上の二つの注文は、一日に僅か十分か十五分を費や
 すに過ぎないが、これによつて一家に規律立ち、一家を
 團聚することか出来る、私は經驗上多大の効果を心得居
 るから、これを更に多くの家庭に試みらるゝやう希望す
 るのである。(女鑑)